

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

# PRsj

PUBLIC RELATIONS  
SOCIETY OF JAPAN

# NEWS

2018年8・9月合併号

NO. 299

## O P I C S

社会を良くするPRを

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事 飾森 亜樹子

MESSAGE P3

2019年度新会員制度に向けて

ATTENTION P4

「PRアワードグランプリ 2018」9月3日からエントリー募集を開始！

ATTENTION P7

広報PRアカデミー2018「新任広報部長講座」を10月開講

ATTENTION P9

広報PRアカデミー2018「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」を10月11日開講

ATTENTION P10

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

# 8・9月合併号 目次

9月～10月のスケジュール		—	1
MESSAGE(メッセージ)	社会を良くするPRを	—	3
ATTENTION(お知らせ)	2019年度新会員制度に向けて	—	4
〃	「PRアワードグランプリ 2018」9月3日からエントリー募集を開始！	—	7
	広報PRアカデミー2018 「新任広報部長講座」を10月開講	—	9
	広報PRアカデミー2018 広報・PRスタートアップ講座(秋期)を10月11日開講	—	10
BULLETIN(活動報告)	広報PRアカデミー 2018 「PRプランナー試験対応講座(夏期)」	—	11
〃	第20回広報活動研究会「サントリー 武蔵野ブルワリー訪問」(会員限定)	—	12
REPORT(講演レポート)	『週刊東洋経済』の雑誌作りとこれからの展開 ～経済、産業、金融から生活まで 話題豊富な総合経済誌の魅力を探る～(会員限定)	—	12
VOICE of PR PLANNER	新規事業で生かせる力	—	13
PR TREND(PRトレンド(関西))	「正露丸」ラッパと共に100年の歩み	—	15
協会掲載記事	「PRSJ in Media」		16
掲示板	経済広報センター「企業広報賞」【企業広報功労・奨励賞】当協会会員お二人が選出		17
	協会WebサイトSSL化のご案内		18

## 9月～10月スケジュール

<b>企業部会広報ゼミ</b>	日 時 : 9月11日(火)17:00～ 会 場 : 近畿大学東京センター 講 師 : 有限会社サステイナブル・デザイン研究所 取締役社長 西原 弘氏 テーマ : 「SDGs」とはなにか？広報業務との関係は？
<b>プランナー部会朝活</b>	日 時 : 9月12日(水)8:00～ 会 場 : Supership 社 オフィス 講 師 : Monentum(株) 代表 高頭 博志氏 テーマ : 「ブランドセーフティ」 講 師 : イー・ガーディアン(株) 講師調整中 テーマ : SNSによるブランド価値毀損リスクとは？
<b>第194回定例研究会</b>	日 時 : 9月14日(金) 12:30～14:30 会 場 : コンベンションルームAP新橋虎ノ門 講 師 : 日本経済新聞社東京本社 編集局企業報道部長 武類 雅典氏 テーマ : 「デジタルファースト時代の紙媒体と電子版の役割 ～変化する日経・企業報道部の記者と企業への取材活動～」
<b>広報PRアカデミー2018 「広報・PR スタートアップ講座(秋期)」</b>	日 時 : 10月11日(木)9:30～17:10 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
<b>広報 PR アカデミー2018 「新任広報部長講座」</b>	日 時 : 10月16日(火) 13:00～17:00 会 場 : 日本記者クラブ 講 師 : オムロン(株) 井垣 勉氏 旭化成(株) 山崎 真人氏 朝日新聞 東京本社 三橋 麻子氏 MSD(株) 山下 節子氏
<b>第195回定例研究会</b>	日 時 : 10月26日(金) 会 場 : コンベンションルームAP東京八重洲通り 講 師 : (株)ユーザベース CCO 佐々木 紀彦氏 テーマ : 「デジタルメディアの将来と『News Picks』の戦略 ～新たなグローバル化のなか経済メディアはどう変わるのか～」

## 9月～10月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	(9 月度)	日 時	: 9 月 13 日 (木)	16:00～17:30
	(10 月度)	日 時	: 10 月 11 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館	
教育委員会	(10 月度)	日 時	: 10 月 4 日 (木)	12:00～13:30
		会 場	: 協会会議室	
資格委員会	(9 月度)	日 時	: 9 月 20 日 (木)	16:00～18:00
		会 場	: 協会会議室	
国際・交流委員会	(9 月度)	日 時	: 9 月 19 日 (月)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
広報委員会	(9 月度)	日 時	: 9 月 27 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
顕彰委員会	(9 月度)	日 時	: 9 月 19 日 (月)	12:00～14:00
		会 場	: 協会会議室	
企業部会幹事会	(9 月度)	日 時	: 9 月 5 日 (水)	17:00～18:30
		会 場	: 協会会議室	
PR業部会幹事会	(9 月度)	日 時	: 9 月 18 日 (火)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
PRプランナー部会 幹事会	(9 月度)	日 時	: 9 月 19 日 (水)	19:00～21:00
		会 場	: (株)電通パブリックリレーションズ	

## 社会を良くするPRを

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会  
理事 飾森 亜樹子

本年度から理事、資格委員会副委員長として協会に仲間入りさせていただきました。PRプランナー資格認定制度の進化と協会の更なる発展のために、アタマもカラダもフル回転させて活動に取り組みたいと思っています。

長い間PRの仕事に携わってきましたが、事業、経営マター、国内外、IRやプロモーション、社内広報、といろいろな観点でPRを実践する中で、自分自身は「PRのスペシャリスト」ではなく、「究極のジェネラリストを目指す」ということを心にとめてやってきました。会社や団体の中で、これだけ広範囲のステークホルダーコミュニケーションを担える総合プロデューサーとなるPRパーソンは、広範な知識と高い視座、優れたバランス感覚とコミュニケーション能力が問われます。この仕事を経験すれば、どんな職場・職種・役職でも通用する、というのが持論です。現に私は、社内の事業部長仲間に「幹部候補となる若手は、うちの部をぜひ経験させてやってほしい」とお願いしており、実際にそのような社内業務研修で若手を何人も受け入れています。「PRという仕事は、上を目指すために必要かつ貴重な全社目線の仕事を経験できる」という理解を広めるということです。そしてPR経験を持った彼らが各部署に戻り、ステークホルダーコミュニケーションマインドを持った人が社内で増殖してくれるのが理想です。私が協会の活動を通じてPRという仕事・PRプランナーという資格の価値を高め、広めていきたい、という気持ちはこれとつながっています。

もうひとつの私のテーマは「社会を良くするPR活動」の推進です。SDGs、ESG投資など、サステナビリティ経営の考え方は、今後グローバルなPRの世界で更に重みを増してくるものと信じています。これからの企業に大切なのは、短期的な利益の追求だけでなく、中長期的な成長につながる、社会に責任を持った活動につながる、ステークホルダーの期待に応え、社会課題の解決につながることです。企業活動のPRもなお一層、社会課題を解決する“社会課題起点ストーリー”が重要となると思います。社会の課題を解決すること、社会を良くすることは、一企業だけで実現できることではもちろんなく、より多くの企業や団体のつながりと協働・共創とその思いから生まれることです。サステナブル経営の代表と言われる、ユニリーバのポールマンCEOの言葉「社会を良くする目的こそが成長を加速させる」。我々PRパーソン全員で「社会を良くするPR」を行っていきましょう。

## 2019年度新会員制度、どうなる？どうする？

会員のみなさまには平素より、協会活動に多大なご理解、ご支援をいただき、感謝申し上げます。PRSJでは、急速なメディア環境、社会環境の変化の中、時代のニーズに適した会員・会費制度改正を2019年4月から施行いたします。皆様に新しい会員制度をより理解していただくためにも、協会ニュースで会員制度のご案内とともにPR業、企業それぞれの立場での会員制度の活かし方やPRプランナー部会の活動について今月号より連載で紹介していきます。

### ■会員種別検討特別委員会リレーエッセイ

#### 第2回「新会員制度について ～一般企業広報の立場から～」

会員種別検討特別委員会・監事  
山田 悦朗

会員種別検討特別委員会に企業メンバーとして参加した者として、新会員制度に改定された場合の企業広報の立場から見てのメリットをいくつか挙げたいと思います。

PR業ではない一般企業が日本パブリックリレーションズ協会のイベントやセミナーを活用したり、活動そのものに参画したりするには、通常、法人正会員への登録が必要になります。年間15万円の会費で、会社によっては社内稟議などの手続きが必要になりますが、教育委員会主催の各種セミナー、定例研究会への参加や企業部会主催のフォーラム、活動研究会に、法人会員登録名の広報部長だけでなく広報部門の担当者も会員価格（割安）で参加できます。他部門からの異動で広報部門のマネジャーや担当者になったときのための教育プログラムや最新のPR手法などを解説するセミナーなど種々充実しているので、法人会員（正会員）となるメリットは大きいと思います。通常なかなかお会いできないような、メディアの編集トップのお話を聞く機会も頻繁にあります。企業部会イベント後の懇親会などは、同じ広報業務に携わる者同士、悩みを共有したり、あらたなヒントをいただいたり、異業種交流会そのものになり楽しいものです。

今まではこのような協会利用形態が普通でしたが、今回個人会員へのハードルが低くなったことによって、以下のようなメリットが増えると思われます。

- ①（法人）正会員登録が難しい中小企業の広報部門の方、または専門組織はないが広報を担当している個人の方が個人会員登録（会費1万円）し、上記のような協会活動に参加、利用できる。（こういう場合、会費は会社にお問い合わせできるのではないのでしょうか。）
  - ②地方の企業、自治体、公団体、独立行政法など、やはり（法人）正会員登録が難しいような組織で広報業務に携わっている方も、気軽に個人として参加し、見聞を広げることができる。
  - ③法人正会員企業の広報部門から他のセクションに異動になったものの、広報活動の魅力が忘れられず、何らかの形で広報スキルを維持しておきたい場合も、継続して個人で協会活動に参加できる。
- 今後は、個人で広報業務のプロフェッショナルとして培ったスキルを武器に、キャリアアップを目指す方々もいらっしゃるでしょう。そんな方にはぴったり。
- ④現在のPRプランナー会費（2万円）よりも安くなりますので、現在未加入のプランナーはもとより、准プランナーやプランナー補の方にも新たに個人会員になって、勉強できるようになります。

最後に、個人会員も「会員」として、協会セミナーなどを利用、活用するだけでなく、協会の委員会や企業部会の運営に関与することが可能になります。ボランティアとしての活動となりますが、会員向けのイベントそのものを企画する委員としての活動の道が開けます。企画からイベント開催までのプロセスの中で、同様に参加しているメンバーから勉強することは多々あり、単なるイベント参加以上の充実感、達成感が味わえること請け合いです。

（法人）正会員登録が難しい組織で広報活動に携わっておられる方、会員になっていないプランナー、准プランナー、プランナー補の方、参画をお待ちしています。

## ■特集：How to PRSJ Part.1

今月から PRSJ 会員の方に自らの協会に関わる活動をもとに、協会に関わることの楽しさや有意義に、実務に役立てるためのコツなどをご紹介します。今月号は松山大学の高原さん、凸版印刷の渡邊さんに企業広報セクションの立場から協会活動の体験と社内での活かし方をご寄稿いただきました。

### 日本パブリックリレーションズ協会の橋渡し役

2015 年 4 月から 3 年間、松山大学東京オフィス (MTO) 勤務中、日本パブリックリレーションズ協会企業部会幹事として活動してきた中で一番記憶に残っているのが 2017 年 9 月 21 日開催の広報ゼミ。

常に参加率が高く、かつ、建設的な意見が多く出ることでも有名(らしい)企業部会幹事会での広報ゼミの打合せの一コマ。

テーマとなった[Global Communication【インバウンド×官民タイアップ】企業広報の力は訪日外国人を地方に呼び込む鍵?] について、事例発表等の候補企業は数社出るものの、地方自治体での好例はないか?との進行役の振りに、ふと、以前とある会で、しまなみ海道を自転車で渡るイベントに外国人参加者が増えてきているという話を耳にしたことを思い出し、これは愛媛の知名度 UP につながる絶好のチャンスとの思いで提案したところ、賛同をいただいた。



広報ゼミの様子

早々に愛媛県の担当者に相談したところ、即快諾。当日講師として登壇してくれたのが偶然にも高校時代の同級生。このゼミには他にも数名登壇されており、参加された方からは非常に好評だったと伺った。正に東京と愛媛・松山間約 1,000 キロをつないだ『そらなみ街道(?)』が実現したゼミであった。



2017 年 9 月 21 日開催の広報ゼミ講師と参加者

ちなみに、この同級生は、翌日、愛媛を売り込みにアメリカに旅立った。

一方、2018 年 4 月に松山勤務となってからは、直接 PR 業に関しての情報交換はないが、協会所属のとある会社から本学に業務に関する相談があり、お役には立てなかったが、ご相談いただいたことにつながりの重さを感じた。

様々な活動を通じて培った人的ネットワークにより、多くの企業の広報部長や執行役員の方に懇意にいただいたことから、今後、学生が首都圏企業における就職活動で及ばずながら何らかの橋渡しができるのではないかと考えている。

地方であっても日本パブリックリレーションズ協会所属企業の方との人的交流を継続することは本学にとって非常に有益であると感じる次第である。



元企業部会幹事  
松山大学総合研究所事務部  
高原 敬明

## 日本パブリックリレーションズ協会の活用

私が広報部長の職に就いたのは2006年で、当協会には2009年からの教育委員会への参加、その翌年に何故か理事就任の要請があり、あまりよくわからないまま理事に就任したというのが正直なところ。その後、理事として出版委員長を2年務めた後に、2012年から2016年までの4年間、副理事長、広報委員長（出版委員会を統合）、企業部会・副部会長の3つの職務を担当しました。その反省として、協会活動内容と参加メリットを十分に伝えきれなかったように思いますので、私の体験を踏まえて紹介したいと思います。

まず、当協会の各種セミナーはたいへん充実したカリキュラムがあります。例えば新任の広報者には春と秋に「広報・PRスタートアップ講座」があります。広報は専門知識も必要であり、かつ経営に直結する部門であり、危機管理のように即決しなければならないものもあり、新任時には相当苦労しました。当事このような講座があれば、間違いなく受講していたと思います。教育委員会の定例研究会に加え、企業部会、PR業部会、PRプランナー部会が自主運営する研究会も数多くあります。企業部会では、メディアを講師に招く「企業部会フォーラム」、各社の事例を基にした「広報ゼミ」、企業の施設を訪問する「広報活動研究会」の3つを柱に行っており、企業広報の立場で活発な意見交換ができるので、たいへん有意義です。

広報部員のスキルを如何に高めるかも大きなテーマですが、当社では「PRプランナー資格制度」を活用しています。2年目に1次試験、実務3年経験を経て3次試験受験を標準として、対策講座の受講、試験、登録まで全てを会社で費用負担しています。実際、「業務に加えての負荷はあるが、広報業務に必要な知識を身につけることができた」と受験者と上司ともに好評です。

当社の広報部門では、管理職、担当者それぞれのポジションで委員会やセミナーに参加し、多くの情報と知識、ネットワークを得るなど、実務に役立っています。私個人としては、6年間の理事職を務める中で、一番思い出深いのは2016年に行った「倫理綱領」の策定でした。この過程では、メディア、企業、PR業、研究所などのパブリックリレーションズに関わる多くのリーダーにお会いし、広報人としての見識を高めるうえでもたいへん有意義でした。皆さまにも当協会を活用いただき、運営にも関わっていただきたいと思います。



企業部会幹事  
凸版印刷株式会社 渡邊幹夫



広報・PRスタートアップ講座の様子



第22回1次試験  
東京会場：東洋学園大学本郷キャンパス

## 「PRアワードグランプリ 2018」 9月3日からエントリー募集を開始！ アワードサイトも開設

顕彰委員会

「PRアワードグランプリ」は、一般企業の広報部門やPR会社が実施するパブリックリレーションズの事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰、公開するものです。日本のコミュニケーション技術の質と向上とパブリックリレーションズに対する一層の理解促進をめざし、今年も9月3日からエントリー募集を開始いたしました。

今年度はパブリックリレーションズ領域におけるプロフェッショナルの審査員に加え、アカデミズム・ジャーナリスト視点をもった審査員が一堂に会して審査を行うことにより、多彩なエントリーに対し多角的な視点で評価を行い、PR業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指します。

今年度も9月3日（月）～28日（金）の間にエントリーされた方々には早期エントリー料が適応されますので、お早目にエントリーください。

また、アワードの特別サイトも開設しております。 <https://award.prsj.or.jp/index.html>  
昨年のアワードの受賞エントリーの紹介などもありますので、ぜひご覧ください。

会員の皆様におかれましては、募集要項をご参照いただき奮ってエントリーをお願いいたします。多数のエントリーをお待ちしております。

### ■「PRアワードグランプリ 2018」募集概要

- ・募集期間：2018年9月3日（月）～2018年10月24日（水）17:00 必着
- ・後援：経済産業省、日本広報学会、公益社団法人 日本広報協会
- ・応募作品：（公社）日本パブリックリレーションズ協会の会員社ならびに非会員の企業・団体が実施あるいは参加したコミュニケーション活動（現在も継続中であれば過去の応募作品も可）
- ・対象期間：最近1年間に成果があがった活動  
（複数年にわたり現在でも継続している活動も含む）
- ・応募部門：
  - コーポレート・コミュニケーション部門
  - マーケティング・コミュニケーション部門
  - ソーシャル・コミュニケーション部門
  - インターナル・コミュニケーション部門
  - 調査・研究部門
- ・エントリー方法：「PRアワードグランプリ 2018」 エントリーフォームに必要事項を入力しエントリーシートを添付して登録。エントリー完了後に、エントリー料の請求書を送付。2018年11月14日（水）までにお振込みをお願いします。  
詳細はこちらの URL をご確認ください。 <https://award.prsj.or.jp/flow.html>
- ・エントリー料：
  - ・早期エントリー：9月3日（月）～9月28日（金）までの受付記録があるもの  
10,800円/1エントリー（消費税込/振込手数料別途）
  - ・最終エントリー：9月29日（土）～10月24日（水）17:00 必着  
21,600円/1エントリー（消費税込/振込手数料別途）

・審査方法：

審査委員長のもと、9名の審査委員で審査団を構成。審査委員全員が一堂に会して議論形式の審査会を開催。部門横断で全エントリーに対し厳正な審査を行い、「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の各賞を決定いたします。なお、顕彰委員会及び審査団の協議により、上記の賞以外の表彰を行う場合もございます。

1. グランプリ選出審査（11月中旬予定）

審査員団が全エントリーを審査。

審査終了後、審査結果をご担当者にメールにてご連絡いたします。

2. 表彰式について

受賞エントリー（シルバー以上）については、12月11日（火）に実施される表彰式でプレゼンテーションしていただきます。

※表彰式の詳細は、11月下旬にご担当者にメールでご案内いたします。

日時：2018年12月11日（火）17：00～20：00（予定）

会場：時事通信ホール

◇ 表彰

「グランプリ」：1点（トロフィーを授与）

「ゴールド」：2点（トロフィーを授与）

「シルバー」：5点（トロフィーを授与）

「ブロンズ」：7点（表彰状を授与）

※上記は目安であり、最終的な表彰点数は審査団の協議により決定いたします。

<審査委員団>（敬称略、50音順）

■審査委員長

嶋 浩一郎（株式会社博報堂ケトル 代表取締役社長・共同CEO）

■審査委員（9名）

阿久津 聡（一橋大学大学院 経営管理研究科 教授）

井口 理（株式会社電通パブリックリレーションズ 執行役員）

上岡 典彦（資生堂ジャパン株式会社 CSR・コミュニケーション部長）

河野 あや子（グーグル合同会社 広報部 執行役員広報部長）

高雄 宏政（公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 顕彰委員会／株式会社タカオ・アソシエイツ 代表取締役社長）

高木 恵子（株式会社旭エージェンシー 代表取締役社長）

田中 里沙（事業構想大学院大学 学長／株式会社宣伝会議 取締役）

松本 理永（株式会社サニーサイドアップ バイスプレジデント）

横田 和明（株式会社井之上パブリックリレーションズ  
アカウントサービス本部 戦略企画部 部長）

・「PRアワードグランプリ」上位入賞作品を以下で紹介します。

・PR協会Webサイト

・協会出版物（「PR Yearbook」、「協会ニュース」等）で発表

・協会主催のセミナーなど

なお、詳しい応募内容は、以下の協会ホームページをご参照ください。

<https://award.prsj.or.jp/entry.html>

（事務局・依田）

## 広報PRアカデミー2018

# 「新任広報部長講座」を10月開講

## 広報部門・上級管理職の養成に向けた半日講座

教育委員会

協会では、来る10月16日、東京・内幸町の日本記者クラブにおいて、「新任広報部長講座」を開講します。

本講座は、広報担当役員、広報本部長、特に着任から間もない広報部長など、広報部門の上級管理職を対象に、広報部門の上級管理職として不可欠な考え方や心構え、社内外との関係性の構築、メディアからみた企業・経営の評価や企業における危機管理などについて学びます。講師には、企業において経験の豊富な広報部長、メディア関係者、弁護士を招き、それぞれの立場や経験に基づく講義を行います。



- 開講日時：2018年10月16日（火） 13:00～19:00
- 講座モデレーター：鈴木孝徳氏（株式会社井之上パブリックリレーションズ 代表取締役社長）
- 定員：16名
- 受講資格：企業・団体の広報担当役員、広報本部長、広報部長もしくは準ずる方
- プログラム（予定）

時間	タイトル(仮)	講師
13:00	開講あいさつ	日本パブリックリレーションズ協会 教育委員会
13:05～ 14:05	「オムロンの広報戦略～経営機能としての『役割』、『責任』、『存在価値』～」	オムロン株式会社 執行役員 グローバルインベスター&ブランドコミュニケーション本部長 井垣 勉氏
14:15～ 15:15	「緊急事態における広報の在り方と広報部長の役割」	旭化成株式会社 理事 購買・物流統括部長 (元広報室長) 山崎 真人氏
15:30～ 16:30	「メディアから見る企業・経営と広報部長に期待すること」	朝日新聞東京本社 社会部次長 三橋 麻子氏
16:40 ～17:40	「グローバル・ブランドの構築と広報マネジメント」	MSD 株式会社 執行役員/広報部門統括 山下 節子氏
17:45 ～19:00	広報マネジメントサロン(懇親会)	当日の講師及び受講者全員

- 会場：日本記者クラブ（東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル9階）
- 受講料（税込）

	PR協会会員	一般	PRプランナー(准・補)
受講料(円)	38,880	58,320	51,840

※日本PR協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみが適用されます。

- 申込受付期間：2018年10月12日（金）まで
- 詳細/お申込み：協会Webサイト（下記URL）の講座ページをご参照ください（9月中旬より）。  
<https://event.prsj.or.jp/pr-academy-2018/management>

（事務局 真部）

## 広報PRアカデミー2018

# 「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」を10月11日開講 ～新任広報・PR実務者を対象とする今年度開講の新講座～

教育委員会

協会では、来る10月11日、秋から異動等により新たに広報・PR部門に着任する実務者、比較的経験の浅い広報・PR担当者を主な対象に、業務に関する基本的な知識やスキルの習得をはかる「広報・PRスタートアップ講座(秋期)」として、「『メディアリレーションズ』から『デジタル広報』、そしてその先へ～今日的なメディア環境にマッチする『ハイブリッド広報』の進め方～」を六本木アカデミーヒルズ49にて開講します。

時代とともに急速に変化するメディア環境。広報・PRを取り巻く環境はこの30年を通じて大きな変容を遂げました。この変化を背景として、広報・PRはテレビ・新聞・雑誌・ラジオなどのマスメディアを対象とした「アナログ広報」からWebやブログを活用する「デジタル広報」へと変遷し、今では多彩なソーシャルメディアを通じて生活者が自ら情報を発信する能力を手に入れた新たな時代における、今日的な広報・PR活動が模索されています。

デジタルメディアの発達とともにかつての影響力は損なわれたとはいえ、今なおマスメディアの存在を侮ることはできません。ただ、それらを対象とするメディアリレーションズの手法にも、この時代を考慮した新たな視点が必要となりました。今や、マスメディア、多彩なデジタルメディアが共存する現在のメディア環境にマッチし効果を上げることのできるハイブリッドな知識や手法の習得が、広報・PRにおける喫緊の課題となっています。

本講座では、クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役社長の雨宮和弘氏、同 コミュニケーションコンサルタント 久寿米木智日人氏を講師に迎え、当日の講義と演習をご担当いただきます。

講座では、まず過去30年あまりにわたる広報・PRの変遷を俯瞰し、マスメディアとの良好な関係を形成するメディアリレーションズ、多彩なデジタルメディアの特性や活用を内容とする「デジタル広報」の基本を理解した上で、双方の特長やメリットを効果的に発揮する「ハイブリッド広報」の基礎を学びます。講義中心の座学に終始することなく、ワークショップを通じた演習をとおして、アナログとデジタルの手法が共存する今日的な広報・PRの知識、スキルを身に付ける実践的な内容を特徴とします。

特に、広報・PR業務の新任者、比較的経験の浅い実務者の皆さまには、メディアリレーションズやデジタル広報の基本とともに、これからの時代に求められる「ハイブリッド広報」を集中的に学んでいただくことが可能です。

本講座の詳細ならびに受講申込については、協会Webの下記ページをご参照ください。多くの皆さまの受講をお待ちいたします。

<https://event.prsj.or.jp/pr-academy-2018/startup-autumn>



クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社  
代表取締役社長の雨宮和弘氏

広報PRアカデミー 2018

## 「PRプランナー試験対応講座(夏期)」を開講 ～「3次試験対応講座」と「1次試験対応講座」～

教育委員会

協会では、PRプランナー資格認定試験に合格をめざす受験者を対象とした今年夏の「PRプランナー試験対応講座」2講座を開講、8月1日をもって終了いたしました。

今年度は、「PRプランナー試験対応講座」では、「PRプランナー3次試験対応講座」「PRプランナー1次試験対応講座」の2講座を開講しています（2次試験対応講座は今年度休講中）。

「PRプランナー3次試験対応講座」は、6月5日から7月11日にかけて六本木アカデミーヒルズ49を会場として6回を開講、今回は会場受講、Web受講を合わせて、過去最高となる117名が受講しました。講師には、「ニュースリリースの作成」を（株）電通パブリックリレーションズの青田浩治氏、「広報・PR計画の立案作成（マーケティング課題）」（株）オズマピーアールの野村康史郎氏、「広報・PR計画の立案作成（コーポレート課題）」は（株）井之上パブリックリレーションズの高野祐樹氏が担当、ニュースリリースの作成ならびに広報・PR計画の立案に関する技能を検定する3次試験の突破に向けたポイントが、講義と演習を通じて解説されました。



また、「PRプランナー1次試験対応講座」7月12日より8月1日にかけて4回にわたり六本木グランドコンファレンスセンターで開講しました。講師は本講座では初登壇となる（株）井之上パブリックリレーションズの横田和明氏、また前回に引き続き（株）エイレックスの畑山純氏が担当しています。講師のお二人には、公式テキストである「改訂版 広報・PR概論」に基づき、幅広い領域にまたがる広報・PRの基本的内容をご解説いただきました。



今夏のPRプランナー認定試験は、7月21日には「第22回 PRプランナー3次試験」が東京と大阪で、また8月26日には、「第23回 PRプランナー1次試験」が東京、大阪、名古屋、札幌で実施されました。いずれにもPRプランナー試験対応講座受講者の多くが受験しており、多数の合格が見込まれています。

なお、冬期の3次試験対応講座は12月、また1次試験対応講座は来年2月に開講の予定です。講座詳細ならびに受講受付は、開講の約1か月前より当協会のWebサイトにてご案内します。

(事務局 真部)

**会 員 限 定****第 20 回広報活動研究会「サントリー 武蔵野ブルワリー訪問」  
— 広報活動研究会を 7 月 17 日に開催 —**

企 業 部 会

7月17日(火)にサントリー東京・武蔵野ブルワリーで第20回広報活動研究会を実施し、11社23名の会員が参加しました。

「ザ・プレミアム・モルツ」の醸造家の想いや素材、泡、水へのこだわりをご説明いただいた後、実際の製造工程の見学を実施し、最後に「ザ・プレミアム・モルツ」「ザ・プレミアム・モルツ〈香る〉エール」の試飲と注ぎ方の体験を行いました。

**R**REPORT**会 員 限 定****第193回定例研究会****『週刊東洋経済』の雑誌作りとこれからの展開**

～経済、産業、金融から生活まで 話題豊富な総合経済誌の魅力を探る～

講師：株式会社東洋経済新報社

『週刊東洋経済』編集長 西村豪太氏

第193定例研究会(7度)は、7月2日(月)12:00から、日本外国特派員協会で開催しました。講師は(株)東洋経済新報社『週刊東洋経済』編集長 西村豪太氏。テーマは「『週刊東洋経済』の雑誌作りとこれからの展開～経済、産業、金融から生活まで 話題豊富な総合経済誌の魅力を探る～」。

## 新規事業で生かせる力

合同会社 DMM. com ライツ管理部  
根本 幸子

合同会社 DMM. com の根本と申します。

現在はライツ管理部で自社 IP の販売営業やタイアップ企画などを担当しております。

業界紙出版社で社会人スタートをきり、その後外資系 PR エージェンシーで PR の楽しさと辛さ(?)を経験し、EC サイト事業会社へ行き、DMM、という流れです。PR プランナーの資格は取得したものの、現在は PR や広報をメイン業務としていないため、DMM での仕事について絞って書かせていただきたいと思います。(PR とはあまり関連ないかもしれませんが、ご容赦ください・・・！)

DMM という会社は、私が在籍しているこの 4 年半の中でも十数個の新規事業が立ち上がり、従業員が増え、組織編成があり、とにかく前に前に走り続け、そのスピード感が年々上がっている・・・そんな会社です。

私が DMM で初めに入った部署は、3D プリント事業部(現・.make 事業部)で、法人営業を担当しました。

DMM がハイエンド 3D プリンターを保有し、3D プリントサービスとして異業種参入した事業です。PR だけでなく、もっと事業の根幹に関わるような企画営業をしたいと思っていた私としては、新鮮な会社で新鮮な事業でした。入ってみると、とにかく自分で考え自分で動くしかない。事業をスケールさせるには、誰と組み、どう売り込めばよいのか。そこでターゲットに考えたのが町工場でした。自社で高精度な 3D プリンターを導入するのは割高と思っている中小の製造業様に対し、3D プリントサービスを使った試作品制作のスピード化やコスト削減などを提案。営業に足を運んだり、イベントや展示会を開いたり、地道にコミュニケーションを重ねていくことで、DMM はわりと本気でものづくり事業にチャレンジしている会社なんだと、少しでも感じていただけたのではないかと思います。

入社 1 年経った頃、組織編成の兼ね合いもあり、別の事業部へ異動することとなりました。「アイドル応援アプリ」を運営する新規事業部で、広告営業を担当しました。立ち上がって間もないアプリの広告営業というのは難しいものでしたが、手を替え品を替え、試行錯誤でようやくいくつかの企業様と PR イベントなどを含めた企画を実施させていただきました。PR エージェンシー時代の企画の考え方や PR イベントの立ち回りなど、かつてのキャリアが生きたかなと思います。とある神社でアイドルのライブを開催した日に大雪が降ったのも懐かしい思い出です。

ですが、立ち上がり 3 年目には他社様への事業譲渡が決定。事業が自分たちの手から離れるというのは寂しくもありましたが、会社として前に進むためのポジティブな選択であり、この経営判断の早さが DMM の強みなんだということを実感しました。

現在所属しているライツ管理部は、DMM が出資したアニメ作品や舞台などのライセンス事業を行っており、動画配信や商品化のライセンスアウト、DVD 製造、イベントなど業務は多岐に渡ります。部署が変わるごとに振り出しに戻って事業を一から勉強するのは容易ではありませんが、一つの会社でこんなにいくつもの事業を経験し、色んな業界の方とお会いできるのは、DMM の面白いところです。今は、他社様のアニメやゲーム、また 2 次元コンテンツに限らずアーティストの商品開発や企業様とのコラボレーションも積極的に仕掛けています。

事業活動をする中で、なにかしらPRに関連する業務はつきものです。勝手にわからないとあたふたしてしましますが、昔取った杵柄で対応できたことが多々あったように思います。そういう意味では、今後もキャリアを生かせる場を自らも作っていきたいと思いますし、DMMと一緒に仕事してみたい！という方がいらっしゃいましたら、是非お声がけいただければと思います。

## <コラム関西の風>

# 「正露丸」ラップと共に 100 年の歩み

大幸薬品株式会社  
広報部マネージャー 高梨 寿

大幸薬品の「ラップのマーク」。

「ラップのマーク」といえば、当社の胃腸薬「正露丸」を思い浮かべていただけるかと思います。今回、「ラップのマーク」と「正露丸」の関係、その登場の時代背景についてご紹介させていただきます。



当社「正露丸」は、さかのぼると大阪の薬商「中島佐一薬房」が、1902年（明治35年）頃に発売した「忠勇征露丸」にたどり着きます。主成分はブナやマツなどの原木を乾留して得られる天然の生薬で、1830年頃にドイツで精製に成功し、日本では1880年頃に「軍薬」として活用されていました。この頃のパッケージには、地球儀に描かれた「誠」の字と、軍隊で食事時に鳴らすそれをイメージしたラップ（正面右下）が描かれており、当時の時代背景が窺えます。



第二次世界大戦後の1946年（昭和21年）に、現会長及び社長の祖父である柴田音治郎が、中島佐一薬房から「忠勇征露丸」の製造販売権を継承し、大阪府吹田市にて大幸薬品を創業しました。その後、1949年（昭和24年）に軍事色の強い「征」の字を「正」にして、「中島正露丸」へと名称変更しました。さらに1954年（昭和29年）には「正露丸」の名称に変更しています。



世代	西暦(和暦)	製品名称	ラップのマーク
初代	1902年 (明治35年)	忠勇征露丸	
二代	1949年 (昭和24年)	中島正露丸	
三代	1969年 (昭和44年)	正露丸	
四代	1972年 (昭和47年)	正露丸	

1951年（昭和26年）、放送を開始したばかりのラジオでは、お馴染みの「ラップのメロディ」を使用した初のラジオCMが放送されました。このCM放送により、「ラップのメロディ」は広く世の中に知られるようになりました。1969年（昭和44年）に「誠」の文字に変えて、サブデザインであったラップをメインに据えて使用したのが「ラップのマーク」の始まりです。

1972年（昭和47年）には、ほぼ現在の形になりました。

「ラップのマーク」の視覚的イメージに、「ラップのメロディ」の音声イメージが加わることで、新聞からテレビ、ラジオと幅広い媒体で、大幸薬品の「正露丸」を容易に想起いただけます。

このように「正露丸」はラップと共に、100年という長い歴史を歩んでまいりました。今では「ラップのマーク」は多くの皆様に愛される当社の顔となっております。

## PR SJ in Media

### ● 7月1日（日） 『月刊広報会議』8月号

『月刊広報会議』8月号において、当協会が5月末に刊行した「2018 PR Yearbook」について記事掲載されました。

「PR Yearbook」は、当協会が1年の活動を紹介する年鑑として発行する出版物です。記事では、今年度の特集テーマが「今、越境するPR」ことにまず触れ、一橋大学ビジネススクールの阿久津聡教授、アサヒグループホールディングスの泉谷直木会長、国連広報センター所長の根本かおる氏など多彩な執筆陣が、PRの可能性やポテンシャルについて語る記事の掲載が紹介されています。また、当協会が主催する「PRアワードグランプリ」の受賞作品、評価ポイントに関する審査員コメントなどについても、解説されています。

### ● 8月1日（日） 『月刊広報会議』9月号

『月刊広報会議』9月号における当協会の連載コラムでは、2019年4月から導入する新会員制度について掲載されています。

新しい会員制度は、5月31日に開催された定時総会で承認されたことに基づき、導入が決定しています。記事では、「時代に即した会員制度の制定」「個人会員への門戸開放」など、制度改訂の趣旨についてまず触れられるとともに、「正会員」「個人会員」「準会員」から構成される新会員制度の概要、多様な構成会員の関係性の構築に基づく新たな価値の創造といった、新会員制度に関する協会の期待などが紹介されています。

（事務局・真部）

[記事協力 株式会社内外切抜通信社]

## 経済広報センター「企業広報賞」【企業広報功労・奨励賞】 当協会会員の2名が選出

経済広報センターが企業広報の発展に向けて毎年、表彰を行っている「企業広報賞」（【企業広報大賞】、【企業広報経営者賞】、【企業広報功労・奨励賞】）がこのほど発表され、表彰式が執り行われました。

【企業広報功労・奨励賞】には当協会会員のお二人が選出されました。飾森氏は当協会理事を務められていますが、理事在任中の受賞は初めてです。

### ■受賞されたお二人

飾森亜樹子氏（NEC 日本電気株式会社 コーポレート・コミュニケーション部長）

野村秀樹氏（森ビル株式会社 広報室長）

なお、【企業広報大賞】にカルビー株式会社が、【企業広報経営者賞】には、大橋洋治氏（ANAホールディングス株式会社 相談役）、高田 明氏（株式会社ジャパネットたかた 創業者）がそれぞれ選出されています。

### ■選考理由

飾森亜樹子氏

30年以上に亘って広報業務に携わり、企業の変革の見える化と企業ブランドに貢献してきた。グローバルコミュニケーションを常に意識し、バランス感覚を保ちつつ国内外に発信している。女性広報の草分け的存在として、広報人材の育成にも努めている。

野村秀樹氏

21年間、広報として企業のブランド価値向上に貢献している。常に都市づくりという仕事の社会的意義を発信し続け、誠実なコミュニケーションを軸に、時代の変化を捉えた戦略的な広報活動を展開している。また、積極的に地域や子どもたちなどと接点を持ち、“社会との対話”を実践している。

## 協会 Web サイト SSL 化のご案内 http から https に変更となりました

現在協会では、協会 Web サイト～PR プランナー資格 Web サイトまで、4つの Web サイトを運営しておりますが、9月より全てのサイトをすべてのページで常時 SSL 化いたしました。

常時 SSL 化については、『検索エンジン側が「このサイトは安全でない」という表示をするようになってきており、これがどんどん強烈な表記になってくるだろう』というアナウンスが Google 社からも出ています。

なお、パソコン等で協会 Web サイトのアドレスをご登録されている皆様につきましては、お手数お掛けいたしますが、URL の更新をお願い申し上げます。



### 日本パブリックリレーションズ協会

変更前

<http://event.prsj.or.jp/>

変更後

<https://event.prsj.or.jp/>

### 日本パブリックリレーションズ協会のセミナー／イベント

変更前

<http://event.prsj.or.jp/>

変更後

<https://event.prsj.or.jp/>

### PRプランナー資格認定制度／検定試験

変更前

<http://pr-shikaku.prsj.or.jp/>

変更後

<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>

### 日本パブリックリレーションズ協会 英文サイト

変更前

<http://www.prsj.or.jp/en/>

変更後

<https://www.prsj.or.jp/en/>

### 編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。  
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、  
よろしくお願い致します。

#### 広報委員会

Eメール [mail@prsj.or.jp](mailto:mail@prsj.or.jp)

FAX 03-5413-2147

※ 禁転載